

地域と学校の 協働通信

令和5年6月29日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室

第11号

特集

- 委嘱状等交付・伝達式
- 新規コーディネーター紹介①
- モデル校第2回協議会の報告

「開かれた学校づくり協議会」委嘱状等交付式、 地域コーディネーター委嘱式 を実施しました

5月31日に武蔵野スイングホール レインボーサロンにおいて、上記の行事をそれぞれ実施しました。本号では、その様子をお伝えします。

まず、竹内道則教育長より、「開かれた学校づくり協議会」の委員さんへの委嘱状・依頼状を各学校の代表者の方にお渡ししました。



教育長より、各学校代表の委員さんに委嘱状・依頼状をお渡ししました

また、教育長挨拶（右上参照）に続き、来賓代表として小中学校長会長の第五小学校 鈴木恒雄校長からもご挨拶をいただきました。

その後、事務局より、今年度モデル校を指定して取組をすすめている学校運営協議会機能の説明や、モデル校の第1回協議会の様子等について報告を行いました。

続く「地域コーディネーター委嘱式」は、複数配置となった学校も含め、新たに8名の方をお迎えし、18校で24名の委嘱状を交付しました。竹内道則教育長からは、「地域とつながり学校に寄り添ったみなさんの活動が、教職員、保護者や子ども達にとって地域で暮らす安心感や愛着の醸成につながっている。2名体制となった学校では、さらにネットワークを広げ、地域学校協働活動を活性化させていただきたい。また、講師等学校への支援に人が集まりにくい状況もある。皆さんからも、学校支援に関する様々な職種の方をご紹介いただけるとありがたい。学校の教育活動や地域学校協働活動へのご理解と貢献に改めて感謝申し上げます。」との挨拶がありました。

竹内道則教育長 挨拶

（「開かれた学校づくり協議会」委嘱状等交付式）

今、学校でも「よりよい社会を創る」という目標を社会と共有する「社会に開かれた教育課程」が求められ、学校だけでなく、家庭・地域で育つ子どもたちのために、学校・家庭・地域が連携を深めて教育活動を豊かにしていくことが必要である。

昨年12月の「学校・家庭・地域の協働体制検討委員会報告書」を受け、今年度、「学校運営協議会機能を有する」開かれた学校づくり協議会のモデル校として、境南小学校と第一中学校の2校を指定した。各学校の委員の皆様には、モデル校がこれからどう展開されていくのか、注視していただきたい。

今後の協議会は、多様な意見を相互に尊重し広く自由に出し合い、より良い学校運営につなげる「熟議」がキーワードとなる。地域の特色、保護者、様々な知恵を生かし、より連携・協働して子どもたちを育むための中心的役割をお願いしたい。

新コーディネーター紹介 ①

今年度新たに着任されたコーディネーターの皆さんを、数号に分けて紹介していきます。

【井之頭小学校 橋爪 恵里さん】

2人の子供が学校、地域の皆様にお世話になり成人になった今、微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。



【第三中学校 村越 直美さん】

先輩のコーディネーターの方々に、ご指導を頂きながら、学校や地域に貢献できればと思っております。

学校運営協議会機能を取り入れた、「開かれた学校づくり協議会モデル校」 境南小学校・第一中学校 第2回協議会



第一中学校 第2回協議会

第3回は、7月19日
午後4時から（予定）

第2回協議会が、6月13日（火）に行われました。今回から、会長が会の進行も行います。今回は、「一中をより深く知る」というテーマで、協議会終了後は部活動の様子なども見ることができるとのスケジュールで行われました。これまでも、「開かれた学校づくり協議会」の委員さんには、学校行事や授業公開等でご来校いただき学校の状況を知っていただく機会を大切にしてきました。学校運営の基本方針について議論する役割を担う学校運営協議会機能を踏まえ、今後は各小中学校の協議会においても、学校・児童生徒・教職員について委員の皆さんによく知っていただくことが、より一層大切になってきます。



当日は、冒頭に校長先生から一中学生の学校生活の様子をお伝えいただくとともに、教務・進路・生活指導の担当の先生方からそれぞれの状況についても説明をいただきました。

続いて、グループ協議では主に、朝読書と部活動の話題が出ました。特に、部活動が先生方の勤務で質量ともに大きな負担と

なっていることから、「給食や昼休み、部活動の見守りなどできないか？」というような具体的なお話も出てきました。保険や責任の問題など課題はありますが、生徒・教職員と共に考え一歩踏み出そうという委員さんたちの思いが伝わってきました。



境南小学校 第2回協議会

第3回は、7月24日
午後6時30分から（予定）

6月19日（月）に第2回協議会を行いました。前回の話題「子どもが行きたくなる学校」について、事前に学校が児童の意見を募り、それをまとめた表（一部右図）を委員さんに事前配布したところ、ある委員さんはそのデータをAI分析にかけて低中高学年ごとの特色を示してくれました。さらに、「保護者だったら？」や「児童の意見を見ていると実現不可能なものは少ないと思った。」など、協議会前から自分事として考えていただいている様子が伝わってきました。



熟議では、「地域でできること」を考えました。「学校ではできないこと」「体験」「基盤づくり」などのキーワードが出てきました。「できることからやってみてはどうだろう。」という雰囲気になり、今後の展開が楽しみになりました。

『行きたくなる学校ってどんな学校かな？』
児童アンケート 上位5位まで

低学年	票数
休み時間が長い（全部が中休み）	16
先生が優しい	13
みんなが仲良くできる（けんかがない）	13
おいしい給食が食べられる	11
図書の時間がたくさん（本がたくさん）ある	10
中学年	票数
授業が楽しい、おもしろい	20
休み時間が長い（増やしてほしい）	15
友達を傷つけない（いじめがない）	10
毎日休み時間に必ず校庭にでれる	9
みんなが仲良くできる（けんかがない）	9
高学年	票数
先生がおもしろい（小ネタを持っている）	23
いじめや暴力がない	22
友達がたくさんできる（いる）	17
授業が楽しい、おもしろい	13
休み時間が長い（増やしてほしい）	13

これからのキーワードになりそう！ ～モデル校からの「ヒント」～

「子どもたちは、どう考えているのかな？」「保護者は？」… 学びの主体者、多様な視点

「本当にできないの？」「できることからやってみよう」… 価値観の見つめ直し、現状を変えようとするチャレンジ精神

「まず、委員が学校をよく知ろう」… 実態把握、特に児童・生徒の姿から考える